

# 第1回POTT研究会 報告

日時：2018年2月10日 10:00~16:30

場所：日本赤十字広島看護大学（広島県廿日市市阿品台東1-2）

参加者：78名（看護師（認定看護師含む）理学療法士 作業療法士 言語聴覚士 医師  
看護教員 福祉機器相談員 インフルエンザ等で欠席3名）

内容：10:00 全体報告 迫田綾子

10:30 POTT技術伝承報告

函館共愛病院	渡邊 渉	（北海道）
紀南病院	宮田栄理子	（和歌山県）
安芸市民病院	湯浅 愛	（広島県）
桜十字病院	建山 幸	（熊本県）
松江市立病院	原田久美子	（島根県）

\*全職員ができる取り組み、POTTプログラムの技術検証、チーム活動と用具の工夫、ポジショニングを入れたケアリンピック、技術伝承の経過と課題等の報告がなされ非常に参考になった、感動した等の感想が寄せられた。

11:40 深化したPOTT技術紹介（ベッド上ポジショニング）講師；竹市美加

\*スキルチェック表に添ってベッド上ポジショニングの根拠と具体的技術を紹介。患者役は富山、食事介助は函館の参加者で、POTT広域化でした。

13:00 講義 車いすシーティング 講師；北出貴則

13:40 演習

- 【目的】①正確なポジショニング技術を学ぶ（復習）  
②職場や地域で技術伝承ができる指導力を向上させる  
③新たな気付きや技術を共有する

【方法】グループ1~10 シーティング 標準型車いす他  
食事援助（自立支援） 患者役・援助者役2・補助1  
グループ 11~19 ベッド上ポジショニング

\*進行；各グループのファシリテーターを中心に進める

15:00 交代 ベッドとシーティングを交代（南北入れ替え）

16:00 まとめ 今後の技術伝承と定着に向けて⇒POTTプロジェクトとして活動

POTT研究会は、3年計画でPOTTプロジェクトとして活動を提案しました。

第2回研究会は、2019年5月11日；日本赤十字広島看護大学です。（予定）

各ブロックリーダー（幹事）を中心にミニ学習会や研修会を開催します。案内は、ホームページで行います。

## POTTプロジェクト(研究会)の方向(2018年~2020年)

### 1. POTTスキルの技術伝承;3年間で全国へ拡げる活動

#### 【POTTプロジェクト】

広く⇒地域2018年⇒30県 2019年⇒40県 2020年⇒46県・・・

看護基礎教育=教員から学生、実習へとつなぐ

深く=当該スタッフ全員ができるレベル、食べる喜びを共有する

### 2. POTTスキルの定着活動

学習会・研修会；ブロック別・県別・施設別

事例検討、スキルチェック、用具紹介等

指導者の育成

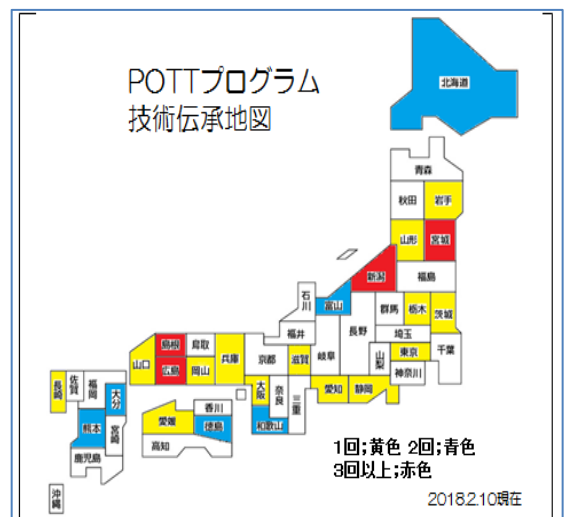
情報提供 書籍化 ホームページ等

### 3. POTT応用スキルの開発

基本技術からケアリングへの応用

### 4. 第2回研究会開催=2019年5月11日(予定)

実践・研究発表 応用スキル紹介、演習等



## POTTプログラム;技術力・指導力向上を目指して!



POTTは  
基本から  
少人数で  
体験的に  
学ぶ⇒  
伝える

深化したPOTT技術紹介  
根拠のあるポジショニングを  
紹介=午後それを体験

熱気にあふれ、  
食べる喜びを  
伝える人が、また  
増えました!

車いすの足底接地;高さも重要

16:30 終了

交流会 17:00~18:00 4階ラウンジ

研究会の感想、これまでの活動紹介、今後の課題等について意見交換。  
遠方からの参加者や医学書院から取材もあり、POTTメンバーの情報交換の場になりました。

理事会 19:00~会則承認、理事・幹事の承認、活動の具体的な計画など検討。

アンケート;ご協力ありがとうございました。集計結果は後日ホームページで公開いたします。多くのサポーター希望や研修希望をいただきました。

第1回POTT研究会は、地域で食べる喜びを伝える活動を拡げるきっかけとなりました。参加者の熱い思いは、きっと地域にひろがる力になると確信できました! 今後は、3年計画でPOTTプロジェクトとして進めていきます。多くの参加者の悩みや課題は、自己のスキルアップの機会が少ないこと、スキルがある者は組織全体にどう定着させていくかということです。新たな技術が定着するには3年かかるともいわれておりますが、午前中の活動報告にはそのヒントが沢山ありました。研究会では、その解決策としてロジックツリーを提案しました。自己の状況をあてはめ、スキル伝承と技術の定着化を図ることを、プロジェクト活動の中心に位置付けています。理事や幹事はその活動や支援をします。

POTTプロジェクトは、全国をブロック制(県単位リーダーあり)として進めていきます。それぞれの地域の特徴を出しながら、活動を進めます。その成果は、次年度の研究会で紹介していきます。研究会開催は、冬季を避け次年度は5月開催としました。第1回研究会では、多くの皆様のご協力、ご支援いただきました。改めて感謝申し上げます。